
6. <水球陣>東日本リーグ第3戦

H26.3.2 対慶應大学 @慶應大学日吉プール

東大 1 0 3 4 計8

慶應 2 4 2 4 計12

得点者：桐生(1)、浪間(6)、石田(1)

東日本リーグ3戦目。明治戦、プロミネンス戦ともに敗戦を喫している東大は後がない。上位リーグ残留に向けて、なんとしてでも勝ちたい一戦である。

第1ピリオド

開始直後、浪間の退水からあっけなく先制点を取られてしまう東大。その後も強いプレスと泳力によりなかなかペースをつかめない。相手から退水を奪い1点をもぎとるも、続く攻防のなかカウンターをかけられ、慶應に点を取り返されてしまう。その後はお互いに隙を見せない守り合いの展開となった。ラスト5秒、慶應にペナルティシュートが与えられるが、ペナルティシュート違反（キーパー疋田のセーブ）により、1点差を付けられたまま第1ピリオドを終える。

第2ピリオド

序盤から強いプレスをかけられ、流れがつかめない。慶應はフローター浪間を警戒し、下がりのディフェンスをしかけるとともに、東大ディフェンスの隙をつき、東大はずるずると点差をつけられてしまう。一方東大は、外周からシュートを打つも得点にはつながらない。結果、このピリオドは東大0点、慶應4点と、東大は大きな痛手をくらう。

第3ピリオド

5点差をつけられてはじまった第3ピリオド。点差をなんとしてでも埋め、追い付きたい大事なピリオドである。開始1分半、ルーキーの石田がカウンターからシュートを決め、先制点を決める。続いて梶原がパスカットから一気に攻め上げ、ペナルティファールを誘い、浪間のペナルティシュートにより2点目を獲得。さらには相手のフリースロー違反からの速攻により、桐生が3点目を奪う。これで2点差にまで詰め、調子に乗ってきた東大。さらに続けて点を取りたい東大であったが、残り2分、右サイドからのミドルシュートを決

められ、流れは慶應に。ラスト 8 秒、キーパーのパスミスからロングシュートを決められ、結局 4 点差で第 4 ピリオドを迎えることになる。

第 4 ピリオド

後がない東大はなんとしても慶應に喰らいつき、点差を縮めたいところ。先制点を取ったのは慶應であったが、すぐさま浪間が 2 点を取り返す。その後も一進一退の攻防をみせるが、浪間のカウンターから連続して得点を決める。流れは東大にあったが、ディフェンスのわずかな隙をつかれ、慶應も点を決めてくる。第 4 ピリオドはお互い譲らず 4 点ずつ得点し、試合は終了。8 対 12 と 4 点差のまま、東大は敗北を喫した。

流れがつかめきれず、終始慶應に押され気味であった。しかし、各個人にもチーム全体にも更なる課題が見つかった試合でもあり、夏リーグでのリベンジを果たすべく、改善をはかっていきたい。

最後に、監督をしてくださった三宅さん、遠方まで応援に駆けつけてくださった堀江さん、有吉さん、ありがとうございました。

(文責 小池俊吾)
